

きばなのせっこく

*Dendrobium tosaense Makino*

四国以西の山地の樹幹、岩石上に着生する常緑蘭で、概観はセッコクに甚だ似る。しかし次の諸点で区別ができる。花期おくれで盛夏に入り、花序は葉を有する茎にも生じ、花序は数花を有する総状で2花ではなく、花は黄緑色、花蓋片は短潤であり、殊に側方外片は距の先端を包んだ基脚から殆んど直線的に先端までつづくために広い三角形をなし、唇弁の基部の基部に近く、暗紫斑がある、また蕊柱先端には3つの鋭い突起があることなどの異点である。和名は黄花の石斛の意。



第 3660 図

さるめんえびね

*Calanthe tricarinata Lindl.*

深山の林下に生ずる多年生草本で、地上部は冬枯れる。葉は倒披針形、長さ30cm内外、厚膜質を帯び、縦に皺があるが比較的平坦、下部は広い柄に移行、7月頃葉の集団中から穂を直立し、高さ50cm前後、花茎は円柱形で上部に総状に10-15花を稍々疎につく。花径4cm内外、汚黄緑色花蓋5片は開出、屢々上半内曲し倒披針形で尖る。唇弁は下垂し、距なく、3裂、側裂片は四角形で開出平坦、中央裂片は広楕円形赤褐色斑が目立ち、縁辺は甚だしくひだがあり、中央には高く畝が3つ平行、和名は赤い唇弁の斑を猿面にたとえたもの。

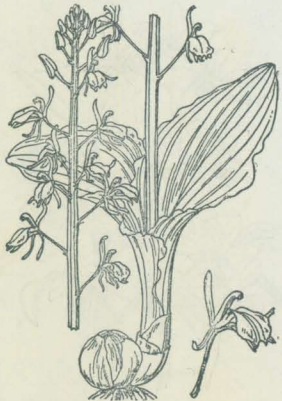


第 3661 図

せいたかすずむしろう

*Liparis japonica Maxim.*

稍々深い山地の林下にはえる多年生の蘭で、偽鱗茎、及び葉状はクモキリソウ及びスズムソウに似て区別は甚だ困難であるが、花の形を異にする。即ち唇弁は前者の如く強く反捲せず、また後者の如く基部が急に折れて広潤に展開することもせず、淡紫を帯びた倒卵状楕円形で、前方に多少下がり気味に突き出す、長さ15mm位。側方の外花蓋片は前者の様に水平に側方に開出せず、後者のように唇弁の裏にそれを受支えているかの様により添うが、唇弁基部が遙かにせまい。6-7月に開花。和名は丈高スズムシで該種より一般に花序が高いことに依り、阿部樫齋の命名。



やちらん

*Malaxis paludosa Swartz*

歐洲の湿原には普通であるが、東亜及び北米では稀に生ずる小型の多年生蘭、日本では日光戦場が原に明治37年(1904)はじめて発見され、著者が湿原(野地)の産に因んで命名した。高さ7cm内外、茎の基部は小球状に膨らむ。葉は3-4基部の葉は卵形、少し上部の者は楕円形、緑色、軟質、先は鈍頭、7月頃に小茎が立ち、頂に密な穂状に小花を綴る。花は黄緑色、他の蘭と違って、花は逆で、小さな唇弁が上向している。外花蓋片3弁は卵状披針形、同大、内片はこれより小、唇弁はさらに小、距を有しないが、基部が心形、短かい蕊柱を包む。花粉塊は4、蠟質、柄なし。

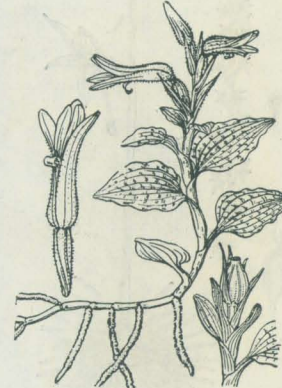


第 3663 図

べにしゅすらん

*Goodyera macrantha Maxim.*

四国、九州の深山で陰湿の林床にはえる多年生草本。稀に南関東東海道にもある、高さ数cmで、肉質紐状の地下茎が地上を匍う。茎は斜めに立ち上がり、左右に4-5葉をつける。葉は薄手の肉質、卵状楕円形で長さ4cm内外、縁には不規則のしわがより、表面は淡い灰緑色で、脈が不鮮明な格子目の模様を作る。夏に入ると茎頂に大きな花を2-3つける。苞も著るしい。花は長さ3cmに近く、外花蓋片は紅味をおびた淡褐色、各々より添って開出せず、ちじれた毛を生ずる。唇弁はそれらより短かく先端が反捲する。蕊柱の先端は長く2裂して突出、その上に長い柄のある花粉塊が乗る。



第 3664 図

はちじょうしゅすらん

*Goodyera hachijoensis Yatabe*

八丈島及九州屋久島の常緑樹林下に生ずる多年生草本。高さ15cm内外、疎に分岐した肉質の茎を地上に引き、頂に1茎が立つ。葉は卵状楕円形で基部は円脚さらに短鞘となり、先端鋭頭、稍々多肉で縁が屢々波打ち、表面は暗緑色、中脈又は附近の細脈が白い。花序は9月頃伸び、軸には短毛を生じ下部に葉状苞2-3を伴う。花は密集し、汚白色、苞片は子房より長い。外花蓋片は卵形、内片は倒披針形、共に4mm長、緑色をおびる唇弁は多肉で下半は膨れ、内部には毛を生ずる。蕊柱も嚙状体も短い。和名は八丈島産の意。

